



大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（6）

～ 「褒める」と「承認」について ～

石垣市教育委員会 学校教育課長 前三盛 敦

突然ですが、お子様のよいところをいくつ挙げられますか。たくさん挙げられた方は、日頃からお子様をじっくり観察して、より多くの言葉をかけている方だと思います。しかし、私たち大人は、毎日の忙しさの中で、子どもを見ているようで子どものよさや日々の成長を気づかずに見逃してしまっていないでしょうか。「勇気づけの教育」第6回は、「褒める」と「承認」についてです。

さて、「すべての人は承認を求めて生きている」と言われています。特に子どもは、親から認められたい、先生や友達に認められたいなど、周りから認められることを通し「自分は価値ある存在だ」と、自己肯定感が高まり自発的に努力するようになると言われます。漢字や掛け算九九を覚えたこと、縄跳びや逆上がりができるようになったこと、部活動やテスト勉強を頑張ること等は、すべて承認を求めての行動と言えます。

では、「承認」とはどういう意味なのでしょう。「承認」は「褒める」と同じ意味と考える方が多いと思いますが、勇気づけの教育で言う「承認」は、「褒める」と少し違います。辞書によると「承認」は『あることを正当・事実であると認めること』、「褒める」は『人のしたこと・行いを優れていると評価して、そのことを言う』とあります。

誰でも「すごい!」「素晴らしい!」と褒められることは嬉しいことですが、褒められるためには、褒められることをしなければなりません。また、これらの言葉は誰に対しても投げかけることのできる褒め言葉であり、場合によってはお世辞だと受け取られたり、「見てもないくせに」と思われてしまうこともあります。さらに、「褒める」は大人の価値観で良いや悪いなどと評価をするので、子どもはあまり心地よいとは言えないでしょう。その上、褒められるために、大人の前とそうでない時とで違う行動をとる子どもを育てる危険性もあります。

そこで、「褒める」ときは褒める視点を明確にするとより効果的です。例えば、子どもがテストで良い点を取ったとき、点数に着目するのではなく、「授業をよく聴いていたんだね」「毎日復習した成果だね」と結果までの過程を具体的に褒めてあげると、より子どもを嬉しい気持ちにさせるでしょう。

一方、承認は「今日は早く起きることができたね」「なんか嬉しそうだね」「字がきれいになったね」等と、子どもの様子そのものを認めたり、成長や変容を見つけ「気づいているよ」とありのまま事実を伝えます。子どもに関心を持ち、じっくり観察しないと伝えられないメッセージなので、子どもが「自分のことを見ていてくれている」という実感を持つことができ、双方の信頼関係が築かれます。また、承認は言葉だけでなく行動で伝えることもできます。例えば、「うんうん」とあいづちを打ちながら話を聴いたり、目を見て話したり、お手伝いをお願いしたり、何かを分けてあげたり、一緒に遊んだりすることも承認と言えます。また、大人と子どもの関係あっても、しっかり約束を守る、何かをしてもらったら「ありがとう」と感謝する、間違ったときはきちんと謝る等は、相手が「自分のことを大切に考えてくれている」「尊重してくれている」「愛してくれている」という気持ちが伝わる大切な承認になります。

皆さん、「褒める」と「承認」について理解していただけましたでしょうか。私たちは、あらゆる場面で、子どもを褒めたり承認したりしています。子どもに何か特別なことかがなくても、褒められることをしていなくても、「あなたは、ありのままでステキだよ」と認めてあげることができたら素晴らしいと思いませんか。「勇気づけの教育」では子どもへの「承認」を大切にしています。上手に褒めようと形にとらわれず、まずは、お子様を受け止めてあげて下さい。さあ皆さん、早速お子様に愛のメッセージを贈りませんか。

